

市民活動団体

活動紹介

「コモンセンス・ペアレンティング講座」 8月31日(土)

コモンセンス・ペアレンティングとは「子どもが社会に適応し情緒を育む」ための方法。今回は主に、幼児期の子を持つ親が参加し、怒らない、怒鳴らない子育ての方法を講師である金森加代子さんがお話し、親御さん同士が話し合い、考え、勉強していた。



▲講座は、様々な場面の子どもへの対応について話しが展開された。そして様々な問題を提案し、参加者も一緒に解決策を考えた。主催は、子育て支援プロジェクトサンシャイン。

「ミニ体験しませんか」 9月6日(金)

プリズムホームにて、親子で参加する「お仕事」が行われた。この「お仕事」とは大人から見る子どもの遊びのことで、主催のNPO法人child工房では子どもにとって大切な遊びをこのように呼んでいる。今回の目的は母親に子どもの観察をしてもらい「子育ては楽しい」と感じてもらう、子どものいたずらは成長に欠かせないことであることを知ってもらうことであった。



▲代表の坂本佳子さんによると今回の目的は細かい物を扱うことで脳を働かせる練習、玩具を触らせてもらったが木で出来た素朴なものが多かった。玩具までデジタルになってくる現在、このような玩具も現代の子どもには必要ではないかと思う。

「成法中学校 チャレンジキッズ」 9月7日(土)

今回は、マジックを通して人と人との交流を深めようと八尾マジッククラブが、子どもたちにマジックを披露した。披露した感想を聞くと「子どもには不思議な体験をして興味を持ってもらいたい。それを通して自分自身も楽しんでいる。喜ぶ顔が見たい。」と言われた。感想を語る表情は嬉しそうでマジックが本当に好きなのだろうと感じた。



▲子どもにマジックを見せる時は簡単すぎるかと集中力がなかったりと、大人とはまた違った難しさがあるようだ。

「市民が医療を考える会セミナー Part5」 9月7日(土)

プリズムホールにて市民が医療を考える会のセミナーが開かれた。この会は「市民が地域医療の問題を考える」ことを目的に行っている会で、今回のテーマは「救急車、呼んだ方がいいですか？」であった。今回は講師として八尾市消防署救急隊の方が来られた。高齢化が進んでいる現在、今回のテーマに興味を持った人は多かったようで席はいっぱいだった。



▲今回は、様々な場面において困ったときの対処法や現在の「救急センターにおおさか」の現状を教えるも多かった。行動するには、必ず知識が必要だ。今回のセミナーも聞いた方が自分のため、人のためになるセミナーであった。

ひとりぐらし高齢者給食サービス 9月14日(土)

主催は、山本地区福祉委員会。小地域ネットワーク事業として、上之島ふれあいセンターで開催。食事の後、市民活動団体「上方さにん花」が沖縄民謡を披露した。山本小学校区では、地域活動団体と市民活動団体が当事者同士で協働を展開している。



▲以前に、堤町集会所で開催した「ことぶき会」主催の「ふれあい喫茶」で出演した。紹介者で「ボカール」の岡田氏の紹介で知り合い、今回出演のため、取材を行った。

絵本の玉手箱 科学絵本 9月19日(木)

主催は、くれよんの会。志紀図書館おはなし室で開催。「おもしろいと思う心は人からもらいましょう」というスタンスで科学絵本を紹介。後半は元高校物理教諭が「数学に目覚めた本」を紹介。参加者も紙と鉛筆と頭を使って数字のおもしろさを体感。



▲本の著者であるカメラマン自身の科学への興味が溢れた水に関する実験の写真に刺激を受け、レゼンターもミニ実験をした。

(取材:つどいスタッフ 大高美和(9/14 取材分は除く))